

マタイ 5・13-16

今日の福音には、私たちになじみ深いみことばが響いていました。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」何度も耳にしたことのある、この福音のみことばが、今日もこうしてこのミサに集っている私たちの心のうちに新たな力をもって語りかけ、私たちを力づけ、奮い立たせる福音のみことばとなることを願ってともに祈りたいと思います。

「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」とイエスは言われます。このみことばをあれこれ思いめぐらす前に、何よりもこのみことばの力強さに圧倒されたいと思います。イエスは「あなたがたは地の塩である。世の光である」と言われますが、私たちが地の塩、世の光である前に、イエスご自身が、イエスのみことばそのものが、私たちにとって地の塩であり、世の光であったはずではなかったのでしょうか。イエスによって私たちのうちにもたらされた塩と光はどうなってしまっているのでしょうか。「塩に塩気がなくなれば、その塩は何よって塩味をつけられよう。」とイエスは嘆いておられますが、そのイエスは今日の福音をもって、もしかしたら塩味を失ってしまっているかもしれない、私たちのうちの塩にもう一度塩味を取り戻させようとしていてくださるのです。日々の生活のわずらいに覆われて、光をもたらしことが出来なくなっている私たちの内なる光を、もう一度、蜀台の上に置きなおそうとしていてくださるのです。

今日の福音のみことばは、イエスの山上の説教の中のみことばですが、福音書の全体に目を向けると、イエスの語られる教えを聴いた人々は、イエスのみことばが持つ権威に驚いたということが再三述べられています。イエスの教えを聴いた人々は、イエスのみことばが持つただならぬ権威を感じ取っていたのでしょう。イエスのみことばが持つこの神からの権威は、イエスが一言をもって悪霊を追い払ったり、中風の人に向かって、「あなたの罪はゆるされた」と言われてその病を癒してくださることによって一層強調されています。先週の平日のミサの中では、幼くして死んでしまったヤイロの娘に「タリタクム、娘よ起きなさい」と呼びかけて、生き返らせてくださった奇跡の物語が読まれました。これらのエピソードが私たちに告げていることは、イエスのみことばを聴いた人々が感じ取ったような、イエスのみことばが持つ圧倒的な力への信仰を新たにするようということなのです。

そのような力に満ちたみことばをもって、イエスは私たちに「あなたがたは地

の塩である。世の光である。」と呼びかけてくださっています。悪霊に取りつかれて苦しむ人から悪霊を追い出し、罪のゆるしを宣言することによって、病の床にある人を立ち上がらせ、床を担いで家に帰らせてくださるイエスのみことばの力は、天地創造のはじめに響いた神のことばを思い起こさせます。死んでいた子を死の眠りから目覚めさせ、いのちの世界に呼び戻すイエスのみことばは、混沌とした闇の淵から、いのちの世界を創造される神のみことばそのものです。イエスのみことばは、そのことばが意味しているものを生み出す創造主である神のみことば広がりの中にあるのです。「あなたがたは地の塩である。世の光である。」というイエスのみことばは私たちの中に新たないのちを生み出し、私たちのあり方を作り変える、イエスによってもたらされた、新たな創造のみことばです。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」というイエスの新たな創造のみことばによって、私たちはイエスのそのみことばが意味しているもの、つまり、地の塩、世の光としての、新たなみことばによる創造を体験したのです。私たちがそのことをどこまで受け止めきれているかどうかは、正直に言っておぼつかないところがあるのは事実ですが、私たちは洗礼を受けることによって、自分たちのうちに、みことばによる新たな創造を体験し、地の塩、世の光とされたのです。この地上に生きる世における生活の中に埋没しきっていた私たちは、イエスのみことばによって目覚めさせられ、そのみことばを信じて受け入れることによって、イエスのみ後に従って生きる新たな人とされたのです。洗礼の恵み中で私たちが体験したはずの、この新たな創造の事実が、私たちの視界の中にはまだぼんやりとしたものとしてしか映らず、そこに向かっての私たちの足取りが覚束ないからこそ、イエスは繰り返し繰り返し、私たちがいただいているこの恵みの現実を悟らせようとしてくださるのです。それゆえ、今日もこのミサの中でイエスは「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」と呼びかけてくださるのです。

「地の塩である」ということは、私たちが生きるこの地上の生活の中であって、この地上の生活が全てだという生き方に対して、人が生きるということとはそれだけのことではないということを経験して生きるということです。「世の光である」ということは、私たちがその中で生きる人の世のあり方に対して、たとえ人の世の現実がどのように闇に閉ざされていようとも、そこにはイエスによってもたらされた神の光が差し込んでいることを証して生きるということです。私たちキリスト者は、神を信じ、イエス・キリストを信じて、そのみことばを受け入れることによって、この地上に住む世の全ての人々に対して、そのような証をするために、地の塩、世の光とされたのです。

先週の日曜日、私たちは真の幸いのありかを告げる、イエスのみことばにあらためて耳を傾けました。幸いはあるのです。世の全ての人がそれを求めて生きる

ように、私たちも幸いを求めて生きるべきです。けれども、イエスによって指し示された私たちの真の幸いは、この世が約束する幸いを超えた幸いです。イエスが指し示しておられる幸いこそ、私たちが目指すべき真の幸いであると受け止めて、この地上におけるこの世の幸いだけを目標として生きる生き方から解放されて生きることが、地の塩、世の光とされた者たちの新たな生き方であるはずで、この世の変転極まりない幸不幸の波に押し流されながらも、その中で心迷い、涙することがあっても、それだけが全てではないと、心の奥底でイエスのみことばを噛み締めることができるなら、この世の幸不幸の波間にあつて、私たちは確かな足場を見出すことが出来るはずで、そのようにして、イエスのみことばによって、その都度新たに立ち上がらせていただくことが出来れば、この地上における世の人々の生活の中にあつて、私たちは私たちの主からいただいた地の塩、世の光としての新たないのちを証して生きる者たちとされるのです。悪霊を一言で追い払い、罪のゆるしを宣言することによって病める者を立ち上げらせ、死の眠りからいのちの世界に呼び戻すことが出来る、イエスのみことばが、私たちの中に注ぎこまれた信仰による新たないのちを強めてくださるよう、今日のミサで御一緒に祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高